

報道機関各位

熊本大学

TGC 熊本開催に伴う「ファッションによるまちおこし」をテーマとした授業開講について

平成31年4月に「東京ガールズコレクション」(以下、TGC)が熊本で開催されます。TGCの地方展開バージョンである「TGC 地方再生プロジェクト」では、メインイベントであるコレクションステージに加え、地域ならではのステージやイベント、地元企業のプロモーション・ブースの展開、コラボ商品の開発、コンテンツ制作といった多様なサブ・プロジェクトを組み込むようになっており、ファッションによる地方活性化のプラットフォーム的な位置づけとなっております。

今回、本学文学部において、TGCと連携する形で「ファッションによるまちおこし」をテーマとした授業を実施することとなりました。

本授業では、「ファッションによるまちおこし」のテーマで、学生グループがTGCでのプロモーション・ブースやメディア・コンテンツ展開に関する企画を考え、優れた企画についてはTGCのサブ・プロジェクトとして実現していこうというものです。学生は、TGC熊本推進委員会や各分野のプロフェッショナルから指導を受けながら、自分たちで立案した企画を推進していくこととなります。

つきましては、期間中の取材方よろしくお願いたします。

※詳細につきましては別紙の授業計画をご覧ください。

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院人文科学研究部

担当：江川 良裕

TEL：096-342-2460

MAIL：ekawa@kumamoto-u.ac.jp

2018 年度『情報技術応用演習』ファッションによる地方創生 授業計画

担当教員(オーガナイザー): 江川良裕(文学部、社会文化科学研究科教授システム学専攻)

授業形態: 講義・演習・討論・プレゼンテーション・フィールドワーク

開講年次(対象学年): 本学学部 2 年以上

(註:人数により受講制限をする場合もあります)

開講形態: 集中 15 回 [2 単位]

開講日時: 2018 年 9 月 18 日(火)~21 日(金)

2~5 限(第 1 日目火曜日のみ 2~4 限)

教室: 18 日~19 日: くすの木会館レセプションルーム

20 日~21 日: 附属図書館学修室

授業の目標・コンセプト

震災から 2 年を経て熊本市は復興期を迎えており、市内都心部の賑わいだけに限れば以前とは変わらぬ水準に戻ったように感じられます。熊本城の修復・復元には 20 年という長期を要するものの、桜町・花畑周辺地区での MICE 施設の展開や熊本駅周辺地区の再整備も着々と進んでおり、復興需要後の景気を牽引することが期待されています。

ただし、一方で震災以前から抱える熊本市の抱える構造的な課題は解決されるわけではありません。人口が既に減少に転じているのは無論、特に若者の県外流出が続いていることが、経済の将来的な足枷となってくるのは確実です。雇用の受け皿となる魅力的で新しい産業・就職先の創出に中長期的な視点から取り組むことが求められていると言えるでしょう。この課題解決の一環として、熊本市は、若者に魅力的なクリエイティブ産業やファッション産業の振興をおこなっています。

2019 年 4 月に熊本での開催が予定されている『東京ガールズコレクション』(以下『TGC』と略)は、クリエイティブ産業・ファッション産業振興のシンボル・プロジェクトとしての意義を担っています。TGC の地方展開バージョンである『TGC 地方創生プロジェクト』は、メイン・イベントであるコレクション・ステージに加え、地域ならではのステージやイベント、地元企業のプロモーション・ブースの展開、コラボ商品の開発といった多様なサブ・プロジェクトを組み込むようになっており、ファッションによる地域活性化のプラットフォーム的な位置づけとなってきています。既に北九州市や広島市で実績を積んでおり、熊本での開催は 3 都市目となります。

本授業は、熊本市におけるクリエイティブ産業・ファッション産業の育成をテーマとした課題解決型のアクティブ・ラーニングであるとともに、先述した熊本で開催される TGC のサブ・プロジェクトのひとつとして推進されます。ファッションやクリエイティブ産業のプロフェッショナルや起業家、TGC の出演者やプロデューサー、自治体の政策推進担当、商品やビジネス開発の専門家などと連携して、学生が TGC でおこなわれるイベントやプロジェクトの企画を立案・推進していくほか、熊本市のクリエイティブ産業・ファッション産業の育成に向けた提言をおこなうことがミッションとなります。

また、学生にとっては、自身のアイデアや思いを現実の形にしていくインターンシップ的な機能を担っています。プロフェッショナルの経験や知識から抽象論・一般論的ではない「実践知」を学ぶこと、具体

的で実現可能と考えられる企画立案とプロジェクト・マネジメントができるようになることが、この授業の目的です。

授業の進め方・概要

授業スケジュールは、4日間で全15回の授業をおこなう集中講義(2単位)の形態を採ります。前半部では、熊本市や県における地域課題や地域活性化の考え方、TGCと地域課題の関係に加えて、ファッション産業の動向や新しい動き、などを学びます。そういった知識を踏まえたうえで、後半部では、学生がグループ単位で、TGC熊本で実施を目指す企画の立案をおこないます。

授業終了後、学生グループは、企画をプレゼンテーションすることが求められます。このプレゼンテーション自体がTGC熊本のティーザー・イベント的な位置づけになっていることに加え、企画の内容はTGC熊本の検討準備委員会に引き継がれ、実施に向けたプロジェクト・チームが組織される予定です。

[授業の流れ]

日程・テーマ	内容・備考 / 担当者
9月18日 Tue.	第1日目
オリエンテーション 全体概論 [講義]	[第1回] 2限 オリエンテーション、概論 / 江川(熊本大学准教授) ● 授業内容や評価方法などの詳細を案内するほか、受講生に求められる作業課題などを説明します。
TGCプラットフォーム論 [講義]	[第2回] 3限 TGC地方創生プロジェクトとは / 辻本(W TOKYO 地方創生プロジェクト管掌役員) ● TGCおよびTGC地方創生プロジェクトの概要、熊本でのTGC開催に至った経緯や前提、開催の意義や目標について講義をします。 ● TGCおよびTGC地方創生プロジェクトについて、そのコンセプトやビジネス・モデル、制作システム、マーケティング、経済効果などを講義します。
TGC地方創生プロジェクト・ケーススタディ [講義]	[第3回] 4限 熊本の課題認識とTGC in Kumamoto / 山本(熊本市産業振興課・主任主事) ● 熊本市でのTGC地方創生プロジェクト推進の前提として、県の都市・地域特性を概観し、人口減少や若者の流出、産業上の課題などを解説します。 ● 課題解決のための政策目標に加え、クリエイティブ産業・ファッション産業の育成などの施策に加え、TGC開催の意義や目標を講義します。
9月19日 Wed.	第2日目
ファッション産業概論 [講義]	[第4回] 2限 アパレル産業の現状と熊本のファッション産業 / 畠中(鶴屋百貨店商品本部統括部長) ● アパレルおよびファッション産業や業界の市場、構造、課題などに加えて、熊本の現状について概観します。
ファッション産業のニュー・カマー① [講義・演習]	[第5回・] 3限 : メイド・イン・ジャパン・ブランドの復権 / 吉國(HITOYOSHI 代表取締役) ● メーカーの企画力の低下、生産の生産の海外シフトなどに伴い、疲弊し縮小していく国内アパレル産業において、品質の追求と中間流通のカットにより、メイド・イン・ジャパン・ブランドを復権するHITOYOSHIの戦略や展開を紹介し、国内のアパレル産業の課題や方向性を考えます。

ファッション産業のニュー・ カマー② [講義・演習]	[第6回] 4限 : ファッション x テクノロジー / 河野(シタテル代表取締役) ● テクノロジーと新しいビジネス・モデルによって、ファッション産業に新しい可能性を開拓したシタテルの戦略や展開を紹介し、国内のアパレル産業の課題や方向性を考えます。
デザイン、ファッションと地 域創生 [講義・演習]	[第7回] 5限 グループ演習オリエンテーション / 江川、今村(カタリバカタリバ事業部ディレクター) ● TGC in Kumamoto の関連イベントとして、自分たちで実現を目指す課題解決型企画を考えるのにあたって、基本的な課題認識に加え、検討の進め方を説明します。 ● この時限以降は学生自身が TGC in Kumamoto の一環として実施する企画の立案に向けた作業になります。学生は複数のグループに編成され、グループ内あるいは講師陣と議論をおこないながら、企画を立案します。

9月20日 Thu.	第3日目
TGC Kumamoto 企画立案 演習(1) [演習]	[第8回] 2限 企画事例ケーススタディ・企画立案演習 / 鎌田(モデル / エシカル・ファッション・プランナー) ● 鎌田氏のエシカル・ファッションに関する試みなどを紹介しながら、学生のアイデア立案をサポートします。

	[第9回] 3限 広島県での産学連携による地域創生 / 光井(呉工業高等専門学校准教授) デザインやクリエイティブを活用し地域創生をおこなうことの基本的な考え方やその効果を考えるほか、事例を紹介し、その可能性などについて議論します。
	[第10回・第11回] 4~5限 企画立案演習グループワーク / 今村、江川 ● 学生グループのグループワークです。

9月21日 Fri.	第4日目
TGC Kumamoto 企画立案 演習(2) [演習]	[第12回・第13回・第14回] 2~4限 企画立案演習グループワーク / 江川、今村 ● 学生グループのグループワークです。
まとめ [プレゼンテーション・講評・ 議論]	[第15回] 5限 まとめ / 江川、今村 ● 制作したの企画のプレゼンテーションをおこない、相互評価や議論・検討をおこないます。 ● 講師による全体の講評に加え、授業を通じて得られたことや気づき、感想などを参加者全員でシェアし、プレゼンテーションに向けての課題や作業を確認・確定します。

[プレゼンテーション・コンテスト]

日程・テーマ	内容・備考・担当者
10月20日(土)PM	
公開プレゼンテーション [TGC ティーザー・イベント]	学生による TGC 地域創生企画プレゼンテーション ● 学生グループが、立案したオリジナルの TGC 地方創生企画を公開の場でプレゼンテーションをおこない、審査・講評します。 ● 本授業の教師・講師に加え、熊本市、ファッション協会、制作者に加え、す TGC スポンサー企業など関係者が審査員や来賓として参加します。放送局などマスメディアによる取材もおこなわれます。

成果物(学生による企画)について

本授業で学生が求められるのは、一過性の企画、エンタテインメント・イベントではなく、市が推進するファッションやクリエイティブ産業推進に資する目的、あるいは震災復興を含めた社会性を意識した試みであること、が前提です。授業における企画のアウトプット・レベルは、コンセプト・アイデアと基本的な仕組みなどのプランに留まると想定されますが、その後の公開プレゼンテーションにおける審査を経て、優秀なプランは、授業終了後に各分野のプロフェッショナルの指導を受けながら、実際に TGC のサブ・プロジェクトとして企画実現を推進していく予定になっています。

サブ・プロジェクトとしての実現が前提となっているため、企画の展開形態としては、以下のような、印刷物・映像・Web コンテンツ等のメディア展開、TGC in Kumamoto 開催期間におけるブース展開(ステージ制作は対象外)、を基本とします。

① 東京ガールズコレクション in Kumamoto 公式パンフレット内のページ

これまでの TGC 地方創生プロジェクトでは、開催都市の魅力などをアピールするコンテンツが定番でしたが、このページをどのようなコンセプト、内容で編集するかが求められます。

② 東京ガールズコレクション 会場プロモーション・ブース

メインステージの開催会場で地元企業などが設置するブースで、地域や企業のプロモーションが中心におこなわれます。そのブースの企画開発と運営です。

③ 地域メディアとの連携企画

地元メディアと連携し、新聞や雑誌などで「TGC × ファッションとまちおこし」に関する情報発信をこなっていくという試みです。

講師候補プロフィール

今村 亮 (いまむら りょう): NPO 法人カタリバ カタリ場事業部 マネージング・ディレクター、熊本大学非常勤講師
カタリバは、大学生や専門学生が高校を訪問し高校生と語り合うという形態の、高校生対象のキャリア学習プログラム「カタリ場」事業のほか、企業研修事業などを展開。また、東日本大震災や熊本地震の被災地支援として、空き校舎を使った放課後学校「コラボ・スクール」を運営。

今村自身は、学生時代に NPO カタリバの初代事務局として「ETIC.起業塾」入選を果たすなど「カタリ場」の事業化に尽力。一般企業に就職後 2010 年に復帰。文部科学省熟議協働員、岐阜県教育ビジョン検討委員会委員、嘉悦大学非常勤講師などを歴任。2015 年 4 月より文京区青少年プラザ b-lab 館長着任。熊本市 (県立熊本高校) 出身。熊本大学では、江川文学部准教授と共同で、社会的課題解決に関するマーケティングやプランニングを学ぶ『ソーシャル・イノベーション生成論』を開講。

www.katariba.net/

河野 秀和 (かわの ひでかず): シタテル株式会社 代表取締役

外資系金融機関、コンサルタントを経て、2012 年、シタテルの前身となる会社を設立。2013 年、「経済産業省・新事業創出支援・第一回案件」に加え、シリコンバレーで開催されたベンチャープログラムにも選抜。2014 年 3 月、シタテル株式会社を設立。熊本県出身。

シタテルは、オリジナル商品を作りたいアパレルブランドやデザイナーと、中小・零細の縫製工場とマッチングし、従来は難しかった 15~100 枚単位の発注を可能にしたアパレル生産のプラットフォームで、熊本市内に本社を構えるベンチャー。

sitateru.com

鎌田 安里紗 (かまだ ありさ): モデル/エシカルファッションプランナー

徳島県生まれ。高校進学と同時に単身上京。在学中にギャル雑誌『Ranzuki』でモデル・デビュー。撮影などの活動を続けながら慶應義塾大学・総合政策学部を卒業し、現在は同大学の大学院に進学。

途上国の支援活動に関心が高く、自身のブログでも情報を発信。JICA の『なんとかしなきゃ！プロジェクト』のメンバーにも選出され、フェアトレード製品の制作やスタディ・ツアーの企画などを行っている。

総合政策学部・環境情報学部非常勤講師。

<http://qcreators.jp/qcreator/kamadaaris>

辻本 優一 (つじもと ゆういち): 東京ガールズコレクション実行委員会 TGC 熊本ゼネラルプロデューサー / 株式会社 W TOKYO 地方創生プロジェクト管掌役員

2000 年、関西大学総合情報学部卒業後、アイエックスナレッジ入社。2006 年、F1 メディア (現 W TOKYO) 入社。TGC KITAKYUSHU を始めとした「TGC 地方創生プロジェクト」を推進するゼネラル・プロデューサー。

<https://www.w-tokyo.co.jp>

畠中 敬治 (はたなか けいじ): (株)鶴屋百貨店 商品本部 副本部長

1987 年、鶴屋百貨店入社。婦人服キャラクターズを皮切りに、ウイング館、New-S などの新店開発を担当。以後、婦人服部長などファッション畑のマネジメントを歴任し、2015 年より上席執行役員兼商品本部統括部長。ファッション・ビジネスに精通。

<http://www.tsuruya-dept.co.jp/>

光井 周平 (みつい しゅうへい): 呉工業高等専門学校 准教授

広島県生まれ。専門は建築構造学。主に木造建築物の耐震性について研究している。

呉高専の全学生・全教員が関わる学年・学科横断型の課題解決型授業「インキュベーションワーク」において地元 NPO や自治会・行政などと連携した空き家再生プロジェクトに学生とともに取り組む。現在は、海上自衛隊

呉地方総監部と共同での地下壕調査プロジェクトやコーヒーを通じたコミュニティ形成プロジェクトなど、学生の「やりたいこと」と地域・社会の「ニーズ」とを結びつけて学びの場をつくる取り組みを進めている。

<https://www.kure-nct.ac.jp>

吉國 武（よしくに たけし）：HITOYOSHI 株式会社代表取締役

親会社の倒産を機に MBO により同社を買取り、消費者に本物のシャツを届ける」というスローガンのもと自社工場にてすべての工程を手作業で製造するメーカーとして設立。自社ブランド「HITOYOSHI」のシャツは、美しいシルエットと着心地の良さを評価され、現在では多くの百貨店を中心に販売され、順調に売上を伸ばしている。

<https://hitoyoshicorp.com>

山本 祿子（やまもと・さちこ）：熊本市産業振興課・主任主事

2009 年、熊本市入庁。14 年から商工振興課でクリエイティブ産業の振興を担当し、特に「まちなかコレクション in KUMAMOTO」などファッション分野での施策の事務局として、ファッションショーコーディネーターや各種団体、学校、企業との連絡調整を担当。16 年より産業振興課（クリエイティブ産業・ファッション関連産業振興担当）配属となり、現在は TDC 熊本の事務局業務に従事。

<http://www.city.kumamoto.jp/>

テキスト・参考文献・資料

各自で用意するテキストはありません。参考文献、資料については、必要に応じて指示するか、配布します。

評価方法・基準

授業への積極参加・情報発信：20%

最終企画書：60%

公開プレゼンテーション：20%